

Narashino International Association



NIA SQUARE ナラシノスクウェア

Quartry News

第50号

2000年6月1日
習志野市国際交流協会

Special Report N.I.A. Youth Report

アジアの人々は今
ショパンに賭ける情熱の人
お花見パーティー
イタリア便り

Who's Who Information Challenge Information

こんにちは・コ・ン・ニ・チ・ハ
2000年度事業計画
ザ・英文クロスワード
日本語ボランティア養成講座

創刊50号特集

N.I.A.スクウェア第50号を祝して



会長 林 安次

習志野市国際交流協会は、1987年7月18日に設立いたしました。設立時すでに350名を超える会員を擁し、市民の活力を結集して草の根交流による国際化への発足をいたしました。そして、1988年3月1日、当協会総務部会の編集部員の努力によって、N.I.A.スクウェアの創刊号が発行されました。以来、年4回発行の本紙は、会員同志の絆だけではなく、市内小・中学校の協力により生徒の家庭等にも配布され、その内容の充実した紙面づくりに対しては、多くの評価を頂いて参りました。

今回の50号発行までに、実に12年3ヶ月の歳月を要しております。この間の協会活動や時代の流れは、特集記事だけを取りましても、一つの歴史を感じられます。各国の方々の意見や、様々な国々の紹介、また姉妹都市タスカルーサ市との交流の報告や訪れた若者達の姿を彷彿とさせるレポート等、実に感慨深いものがあります。

そして、N.I.A.スクウェアの特徴は、多くの人々が登場していることです。これは、編集部の皆さんの努力はもちろんの事でありますが、多くの会員や市民の方々によって支えられてきたことによるものと思います。

どうか、このような特徴を失わず、ますます充実した内容で100号発行に向けて邁進してくださるよう念願し、創刊号以来、編集に携わった方々に心より感謝と敬意を申し上げます。

タスカルーサ市姉妹都市ディレクター委員会

バイロン・フィンリー

Hello, as director of the Tuscaloosa Sister Cities Commission I extend congratulations on the 50th publishing of the N.I.A. "Square".

This month I will bring a group of Tuscaloosa students to visit Narashino. For the first time the Tuscaloosa students will attend classes with Narashino students. Thank you for helping us achieve this goal.

During the 14 years of the Narashino-Tuscaloosa sister city relationship Tuscaloosa residents have made many friends in Narashino and have come to appreciate the Japanese culture. The Sister Cities Commission works to promote better understanding between our two cultures. Each year we present an annual international friendship award. It is given in honor of the late Dr. Paul Garner who was a commission charter member. There are 24 members of the commission. They represent all parts of the Tuscaloosa community.

More U.S. cities have sister cities in Japan than in any other country. In Tuscaloosa we are very happy that our sister city is Narashino. Best wishes for your continued good health, prosperity, and friendship.

Sincerely,

Byron Findley

第50号記念座談会 アジアの人々は今!!



館川裕編集長

平成11年度は新しい編集部員の下で「アジア近隣諸国」の特集記事を取り上げてきました。46号はマレーシア、47号はオーストラリア、48号はフィリピン、そして新しい平成12年は、3月の49号で中国のハルビンを特集し、本号で第50号を数えることになります。この第50号を記念して、N.I.A.メンバーでアジア近隣諸国から来日の人達に「日本の印象や将来の夢」をテーマに記念座談会を開催いたしました。

出席者は、倉田ナリーさん（タイ国、滞日4年）、李景玉さん（中華人民共和国、滞日6年）、ブラハム・プラカシュさん（インド国、滞日1年6ヶ月）、モハメド・ラシードさん（モルディブ共和国、滞日2年）、西條ジェシカさん（フィリピン共和国、滞日1年6ヶ月）、そして誌上参加のマスクード・アハマドウさん（パキスタンイスラム共和国、滞日1年）の6名です。

総合進行を館川裕編集長、司会を編集部の本田博が担当いたしました。



司会 本田博さん

本田：皆さん、日本に来ていろいろ感じられたことが多いかと思いますが、挨拶や軽い言葉、習慣、ショッピングなど、身の回りの生活で困ったこと、良かったことなど、感想をお願いします。

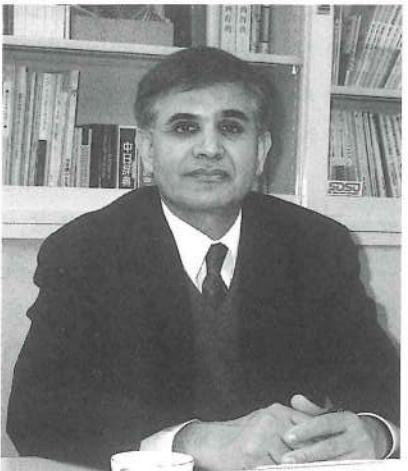
李：私は、日本は「礼儀の正しい国」だと思いました。電車の中で足が触れたら「すみません」と言う。日々の生活では、畳になかなか慣れることができませんでした。日本の家は天井が低く、圧迫感があって、それがたまらなかった。子供もやはり天井の圧迫感があってか、最初の頃はよく泣いていました。今は天井の低さにも慣れました。言葉の面では言葉遣いが難しいと感じました。

アマハドウ：私はいろいろな人と話すことは大切なことだと感じました。もし、その人が日本語を知らなければ、日

本の本当の魅力を満喫することが出来ませんよね。日本人はある程度英語の知識がありますが、殆どの人が恥ずかしがり屋なので外国人と話したがらないようですね。プラカシュ：日本の食べ物は健康に良くて、美味しいものが一杯あります。私の大好きな食べ物はお好み焼き、とろろ、山菜そばなどです。納豆も大丈夫です。私は菜食主義者なので、肉と魚は食べません。日本人は礼儀正しいし、親切です。また、安心して住める国だと思います。靴を脱いで上がる習慣はとてもよいと思いました。清潔に感じられるからです。畳で寝るのもよいと思いました。私が病院で胃の検査を受けたとき、日本の病院はとても早くやってくれたので大変感心しました。日本人はとても恥ずかしがりやだと思います。初対面同士ではあまり話をしませんが、少し経って仲良くなると大変親切で思いやりがあり、おしゃべりなのにとてもびっくりしました。友達も沢山出来ました。今年の7月に日本の思い出をいっぱい持つてインドに帰ります。残り少ない期間ですが、もう少し日本のことについて知りたいと思っています。皆さんのが平和で幸せな日々を送られることを願っています。今日は、よい機会を与えていただ



李景玉さん



ブラハム・プラカシュさん



倉田ナリーさん

きありがとうございました。
倉田：まず、料理ですが、日本の料理とタイの料理が似ている点があります。私の好きな食べ物はうどんです。きらいなものはワサビと納豆です。ただ、日本のパンはマフィンのよう

り長く日本に住んでいないので良く分かれませんが、家に入るときに靴で入ったので妻にしかられました。それが日本に来て一番驚いたことです。電車とか買い物は便利ですね。ただ、日本の学生が、制服でたばこを吸っ



西條ジェシカさん

で柔らかいのに値段が高いと思います。小麦粉はそれ程高くないのですが。習慣のことについては、食べる前に「いただきます」というのはよい習慣ですね。でも、習慣があまり多すぎると真心からやっているのではないよう気になります。結婚式の引き出物など、いつもお返しをもらうのはなんか嫌な気がします。こっちは真心を込めてあげたのに、「もらったからお礼を」というのでは、気持ちとして心がこもっていないような感じがします。バレンタインデーやホワイトデーも本来ならば、気持ちをあげる日なのに。あげたくないでもあげなければならぬのは、良くないビジネスかと思います。

言葉では丁寧語が難しいですね。学校からの電話では、難しい言葉ばかりです。簡単な言葉で言ってくれればいいのにと思います。日本人ははっきりものを言わないので、よく分からないことがあります。私ははっきり言うタイプです。

地域活動として年に1・2回公園の掃除をしたりするのは、他の国にない習慣で良いことですね。地震訓練なども学校でやってくれるのはいいですね。回覧板は役立

ているのは良くないですね。日本の食べ物で一番好きなのは秋刀魚です。焼いたのがすごくおいしいです。モルジブはマグロとカツオがとれ、これらは多分モルジブで取れた魚の方が美味しいかもしれません、サンマはモルジブでは取れないので本当に美味しく感じました。モルジブは小さい国です。多分家も日本より小さいと思います。お金があるうちはシャワーがありますが、お金のない家にはシャワーがないのです。ヨーロッパ、インド、スリランカでいろいろな食べ物を食べましたが、日本の食べ物は味が良く分かって世界で一番おいしいと思います。

でも、日本も良くない面はあると思います。電車に乗ると、お年寄りに席を譲ってもよく断わられるのは残念です。私が外国人だから怖いのかなとも思います。でも、私も日本人と一緒にこの国に住んでいるし、日本人の気持ちで住んでいるので、それがわかってもらえないのは残念です。恐らく、モルジブでもどこの国でもそういうことはあると思いますが。多分、長く住んでいれば分かり合えるようになると思います。

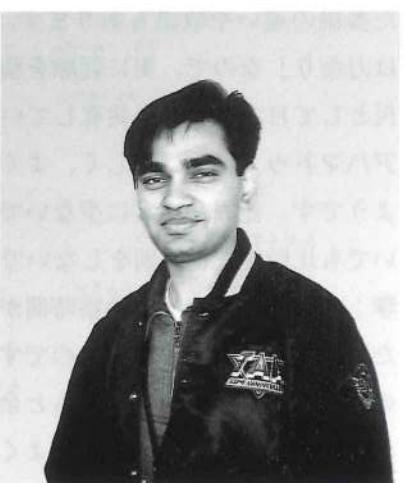
アハマドウ：日本人の中には、外国人を嫌っている人がいます。例えば、私の友人が部屋を探していました。ところが、家主さんが外国人に対する悪い固定観念を持っていて断わられてしまったのです。5本の指が全て同じ長さではないように、日本人も外国人もいろいろな人



モハメド・ラシードさん

っています。でも、お医者さんの説明が少ないので良くない。薬をもらって、どの薬が何に効くのか分からず。買物するときに、日本のデパートは自由で好きです。自分の意志でゆっくり選ぶ事が出来ます。

ラシード：私はあま



マスクード・アハマドウさん



●李景玉さん、倉田ナリーさん、西條ジェシカさん

がいます。お互いに理解しあって共存すべきだと思いません。

西條：私の第二の故郷日本とフィリピンの文化の違うところを私の経験からお話をします。日本は「仕事優先、時間に正確、規則正しい国」だと感じています。時々、家庭が疎かになるのは問題ですが、私には理解出来ます。フィリピンは神様が一番で、次に家族との結びつきを大事にします。日本では約束の時間より15分早く来ます。フィリピンは、交通渋滞で遅れる事がしばしばありますので、「フィリピン時間」と言われています。また、日本はシステムティックで便利です。例えば、ゴミの収集の仕方は良く整備され、衛生的です。それから、建設現場が良い例ですが、その日の仕事をその日のうちに終わらせてしまうということも、物事がスムーズに行くので良い点だと思いますね。それから、レストランのウィンドウケースに入っている蝶の見本は面白いと思いました。値段が書いてあって、チップの習慣もないで予算が立て易いです。これから、日本語をもっと勉強しなければならないと思うのですが、特に日本語は男性言葉と女性言葉が違うのでその点についてしっかり勉強しなければならないと思っています。フィリピンにもそういった表現の違いや敬語もあります。いずれにせよ、「継続は力なり」なので、更に経験を積み重ねながら習志野市民として日本の文化を共有していきたいと思います。

アハマドウ：日本は美しく、よく整備されていて楽園のようです。犯罪も非常に少ないです。肌の色や言葉の違いでも比較的人種差別をしないですね。

李：日本は病院での診察時間が短すぎます。中国だったら1回で全部見てくれるのですが。私の両親が医者なので、両親のやり方と比べると余計そう感じます。1回にもらう薬の量も少なくて、よく「またひどくなるようだったら来てください」と言われますが、何度も足を運

ばないといけないのはちょっとどうかなと思います。

プラカシュ：アメリカやイギリスではたばこや薬の害についてキャンペーンを大々的にやっています。日本では若い人達がタバコを吸っていますが、彼らに道徳教育が必要ではないですか。

李：給料の違いは大きいですね。中国は給料が日本に比べて安いけれど、物価も安い。それから、教育は日本と中国ではかなり違います。子供を日本で育てるべきか、中国で育てるべきか正直言って迷っています。競争社会でなかつたらいいのですが、日本の教育は学校間でも生徒間でも競争が激しいので子供の為にならないと思います。中国の教育は道徳教育が優れています。日本は今のままの教育であれば、この先だめになってしまいます。日本の今の子供達はそう言う意味で心が貧しくなっているように感じます。驚くような事件も沢山起こっていますしね。親の育て方も、甘いと思います。お菓子でも何でもそうですが甘すぎというのはよくないです。それから、思いやりが欠如しているような気がします。今の日本の子供達は、子供っていう気がしませんね。テレビは良くない番組があって、いやですね。NHKは好きだけど、ワイドショーなどで報道されている芸能界のケンカなどは子供に良くないと思います。料理や食べ物の番組が多すぎるのも良くないと思います。



●モハメド・ラシードさんとブラハム・プラカシュさん

ラシード：グルメ番組は、知らない人により多くの情報を与えるという意味があるのでないかなと思います。

李：私は15カ国程回って、いろんな国のニュースを見てきましたけど、日本のニュースは自分の国のことばかり報道している印象を受けました。日本人は旅行でいろいろな国の人と交流できますが、もし、旅行が出来なかったら世界の情勢を知ることが出来ないのでしょうか。日本では決して不可能なことではないと思うので、

是非こうした面を広げてほしいと思います。

本田：最後に、「将来の希望・夢」について、皆さんからご発言を頂ければと思います。

李：将来の夢については、日本の良い面を国に持つて帰りたいですね。悪い面については、その対処の仕方を一つ一つ子供に説明したいと思います。教育に関しては、入学よりも卒業の際に厳しくなるようにして欲しいと思います。大学に入ることだけで、入学後は無目的な生活という学生生活でなく、明確な目的をもった学生が増えるような教育にして欲しいですね。東大に入る学生は大体が塾に行っているようですが、これでは親が疲れますね。塾は無いほうがいいと思います。

プラカシュ：子どもの教育に興味をもっています。お互いに尊敬しあうような人間関係を子どもに教えて行きたいと思います。インドには良い面もあり、悪い面もありますが、人間関係がとても密接なのがよい点です。人間として必要な良い面を子供に身につけさせたいと思います。西洋の考え方を受け入れるのは自由ですが、これを鵜呑みにしていては長い目で見て問題です。

倉田：日本は物価が高すぎて楽しい人生を送れないように思います。家族の時間も少ないし、仕事が多すぎて夫婦の時間が少ないので残念です。まるで、家族の意味が無いみたいです。主人の家族もいますが、人間関係が希薄なせいか、いないみたいに感じます。主人も私の国に行ってよく分かったようです。人生をどれだけ楽しめるか。日本で定年までにお金をためたとしても、なかなか人生をエンジョイできないのではないでしょうか。子



●館川、本田、沼澤

供達は多分自分達で決めていくことでしょう。

ラシード：私の夢は、日本で日本語を勉強し、いつか自分の国で日本語を教えることです。出来るかどうかは分からぬけど。それから「自分の仕事」と言えるものを持ってみたいのです。今、日本で習志野市国際交流協会の日本語ボランティアなどのおかげでお金を掛けずに日本語を勉強できているのはとても幸せなことだと思っています。ドイツではかなりお金がかかりましたから。

西條：私も、先ほどプラカシュさんがおっしゃられたように、お互い尊敬し合える人間関係を次世代に伝えていきたいと思います。日本と美しいフィリピンの自然を知ってもらいながら、将来自立した人生が送れるような生活をしていきたいと思います。

アハマドウ：私の将来の夢は、自分の会社を作ることです。

本田：本日は、大変貴重なご意見を頂きまして誠にありがとうございました。

お知らせ

『特別史料展 ドイツ兵士の見たNARASHINO 1915-1920 習志野俘虜収容所』

平成12年1月にクレストホテル津田沼で開催された特別史料展（本会協力）の展示図録が大変好評につき、特別に松樹印刷（有）の御協力を得て増刷、販売することとなりました。

お求めの方は、習志野市国際交流協会事務局まで。

一部 500円



ポーランドに生まれ、ピアノの詩人と呼ばれたフレデリック・ショパンは、日本で最も人気の高い音楽家の人です。5年おきにNHKでも放送されている「ショパン・コンクール」などを目にしたことのある方も多いことでしょう。今回は、そのショパンの功績を広め、国際ショパンコンクールを通じて若い音楽家たちを育てているショパン協会の活動と、私の友人でショパン協会を支える、一人の日本人女性を紹介したいと思います。海のむこうから届いたEメールを掲載します。

皆さんはじめまして！ 小林倫子です。
ポーランドはワルシャワからご挨拶申し上げます。
この紙面をお借りして、私の主人が会長を勤めているショパン協会について紹介します。



●1999年ポーランド、クラシック・ゴールデン・レコード賞の受賞に際して

ワルシャワ、フレデリック・ショパン協会（以下ショパン協会と記します）は、ポーランド国内外で活動している協会です。ショパンを称えて協会を作ろうという動きは、19世紀に始まっており、その頃あったワルシャワ音楽協会の内部に、ショパン部が作られましたが、1934年になってようやく、『フレデリック・ショパン研究所』という独立した機関が、ショパンの作品と彼の生涯を世に知らせるために作されました。創設者のメンバーの中には、やはり作曲家であったカロル・シマノフスキなどもいます。ショパンの自筆の楽譜を集め始めたのは二つの世界大戦の間にです。1935年には、作曲家でポーランドの首相でもあったパデレフスキを長として、ショパンの全作品を出版するために準備が始められましたが、1948年～61年になってようやく出版が叶いました。第二次世界大戦中には活動は中断されていましたが、終結後、ワルシャワから50km程の場所にある生家、ジェラゾヴァ・ヴォラの修復も始まり、フランスから持ち帰られたショパンの心臓が、ワルシャワ聖十字架教会に移されました。1949年からは、ショパン・コンクールも再開

されました。1950年に、『ショパン研究所』の名称から『ショパン協会』に変わり、現在の所在地オストログスキ城に移されました。現在その中には、博物館・図書室・世界の著名ピアニストがコンサートをするコンサートホールなどがあります。活動状況は次のようなものが主です；

1) 国際ショパンピアノコンクール

1927年に始まり、大戦中を除き、5年おきに行われています。今年の10月にも開催されます。世界中のピアノコンクールの中でも最高峰の位置を占め、これまでの優勝者には、マルタ・アルゲリッチ、クリスチャン・ツィーメルマン、それに日本で人気が高いブーニンなどがあります。

2) 国内ピアノコンクール

40年前から始まり、若いポーランド人のピアニストを助成するために行われています。

3) フレデリック・ショパン・グランプリ・ドュ・ディスク

2年おきに、世界でリリースされたショパンのレコードのうちで最優秀のものを選んで表彰します。

4) ショパンのマスターコース

ショパンの演奏解釈を教える講義で、毎年日本からも多数参加しています。

5) 種々のコンサート開催

オストログスキ城の他、5月から10月までは、ジェラゾヴァ・ヴォラ、ワジエンキ公園のショパン像の下で、またショパンが滞在していたサンニキというところの宮殿、その他主にショパンに由来のある色々な場所で、コンサートを開催しています。また、子供達にショパンの素晴らしさを知ってもらうために、「ショパンとの出会い」と名付け、ショパン協会に招待し、見学してもらうイベントも行っています。



●デンマーク女王陛下ご夫婦と共に倫子さんとアルベット（ショパン協会会長）協会主催の歓迎コンサートで



●フルシャワ公園での野外コンサート

6) 世界に散らばっているショパンの自筆の楽譜や手紙などを、オークションなどで買い集めて修理・保存に努めています。これには大変な費用がかかり、銀行などにその都度呼びかけていますが、資金調達はなかなか進みません。ショパンの貴重な文化遺産が、保存に不安のある買い手の手に落ちるのを涙を飲んで見送るしかなことがあります。最近苦労して手に入れたものの中には、手紙・ポートレート・デスマスクなどがあります。

7) ショパン展の開催

日本でもこれまで三回開催されている展覧会です。世界中から開催の要請が有り、できる限りいろいろな場所で開くようにしています。

8) 「ショパン・スタディズ」

ショパン年鑑の発行、楽譜の出版など、ショパンの研究にも努めています。

9) ジエラゾヴァ・ヴォラーショパン生家の管理・運営

ここには世界からショパンを偲んで年間15万人程の観光客が集まり、催されるコンサートを楽しんだり、ショパンが散策していた公園をそぞろ歩きしています。

昨年は、ショパン協会の要請で、ユネスコがショパン年と認めてくれたので、世界中で色々な催しが行われました。又、第一回夏季ショパン・フェスティバルも開き、好評でした。

只、現在一番の問題は財政的なものです。ショパン協会は、以前はポーランド文化省からの財源で運営していましたが、1991年に協会という組織に対して、国は予算を出さないことになったのです。ショパン協会の運営には、所蔵品（ショパン関連のものは2万何千点、直接ショパンと関係のあるものでも2000点以上有ります）の修理・保存に最もお金がかかりますが、全て併せると年間約8500万円もの経費がかかりますが、スポンサーなどにお願いしても中々資金が集まらず、いつも2800万円程度赤字となってしまいます。私の主人、アルベルト・グルジンスキは1992年からショパン協会長をしておりますが、その仕事はショパン協会を存続させるためのスポン

サー捜しと言っても良いほどです。彼の祖父は音楽院を持っていた人で、また父は作曲家でした。ショパンとも縁が有り、父方の先祖はヨアンナ・グルジンスキといい、ロシア皇帝の弟で当時ポーランドの統治を任されていたコンスタンティ大公の后でしたが、ショパンは毎日曜日に、彼らの住んでいた、現在の迎賓館である宮殿に呼ばれてピアノを弾いていました。

以上がショパン協会の主な活動です。

少しでも多くの皆様に、私たちのことを知っていただければ幸いです。

どうぞよろしくお願ひいたします。 (原文のまま)

ポーランド人が最も誇りにし、愛している音楽家はショパンです。そして、そのショパンの為に幅広く活動し、ポーランドで最も愛されている、有名な日本人は小林倫子さんです。小林さんは、1977年来、ポーランドを中心にヨーロッパで演奏活動をされているピアニストです。第10回ショパン・コンクールでディプロマおよび特別賞を受賞され、他にも数多くの賞を受けられています。つい最近もポーランドで彼女のCDにプラチナレコード賞が贈られました。その多忙な演奏活動の傍らショパン協会会长夫人として活躍され、1988年には、ショパンの作品を国際的に広めた功績を認められて政府より文化功労賞を贈られています。

毎夏、フルシャワ公園で開かれる彼女の野外コンサートでは、多くの人々が感動の涙を浮かべるそうです。また、今までにフルシャワを訪れた日本の財界、政界の方々をお招きし、日本大使館公邸で幾度も大使主催による倫子さんのショパン演奏会が開催されています。彼女のCDは日本でも発売されていますし、皆様の中には読売新聞に時折掲載される「ポーランドだより」のレポーターとして、倫子さんをご存知の方も多いでしょう。そのような著名人の反面、素顔の倫子さんは、子供のように純粋で気さくな人です。年に一度、レコーディングや演奏活動、協会の仕事を兼ねて日本に里帰りします。その折、成田空港へのアクセスのよさなどから、この数年はポーランド帰国前に津田沼のホテルに滞在しています。市内のスーパーでの日本食出しや習志野の和菓子が楽しみのひとつで、短い間に体重が増えるのが悩みとか...。昨年はご主人、お母様と共に京成津田沼駅近くで「居酒屋さん初体験」をし、大喜びでした。皆様もいつの日か近くで倫子さんのチャーミングな笑顔に出会えるかもしれませんよ。

上記寄稿にありましたように、フレデリック・ショパン協会は現在慢性的な財源不足です。美しい音楽を愛する全ての方のご支援をお待ちしております。

4月2日に香澄公園（じゃぶじゅぶ池周辺）で青少年部会の「お花見」が開催されました。参加人数は台湾、中国、ハワイ等、国際色豊かな56名が集まりました。また今回のお花見は参加者が各々の創作料理を持ち寄る形式で行われ、おにぎり、サンドイッチ、クッキー、大根餅、おこわ等、バラエティーに富んだランチタイムとなりました。4月最初の日曜日ということで、少々肌寒く、残念ながら肝心のさくらは満開とはいきませんでしたが、クイズ、ビンゴゲームでは参加者の歓声や笑い声が響いていました。クリスマスパーティー、お花見と最近の青少年部会の行事で感じることは、参加者の年齢の幅が広くなったことです。中・高生はもちろんのこと、家族連れの参加者も増えてきました。そういえば、以前よりかわいい赤ちゃんや小さい子供の姿を見かけることが多くなってきたように感じます。様々な世代との交流は、青少年にとってもプラスになると思います。「青少年の集まりだから」と遠慮してきた会員のみなさん、青少年部会の集まりにも積極的に参加してみるのはいかがでしょうか。



* * *青少年部会よりお知らせ* * *

青少年部会では7月22日（土）に「すいかわり・花火大会」を谷津干潟でやろうと企画しています。時間、場所等は下記の通り。尚、このイベントの打合せと次回のイベントの企画を6月17日（土）の定例会で行います。「こんなことをやってみたい」と思う人、是非いらして下さい！

*青少年事業部会 次期定例会

日時：6月17日（土） PM 1:30～3:00

場所：N.I.A.事務局（京成津田沼駅ビルサンロード4F）

議題：1. 花火大会の打合せ

2. 8月以降のイベント企画

3. スクウェアの記事企画

*すいかわり・花火大会

日時：7月22日（土）PM 5:30～ すいかわり

PM 6:30～ 花火大会（途中参加可）

場所：谷津干潟公園

集合：谷津3丁目、谷津バラ園入口付近にて PM5:30までに

申込み・お問合せはN.I.A.事務局まで TEL/FAX 047-452-2650



その1 被爆した瓦届く－広島からイタリアへ－

1945年8月6日、広島に投下された原子爆弾により、およそ35万人が被爆し、約14万人が死亡...。その後遺症は今だに続いています。

原爆がもたらした破壊力、苦しみ、後遺症など、核兵器の残酷さと戦争の悲惨さを語りかける広島の被爆した瓦が、2000年3月21日、ここイタリアに届きました。この瓦は爆心地から600m以内の広島平和記念公園から出土、その後広島平和記念博物館に展示されていたもので、この度ファチエン町の社会福祉施設に寄贈されました。

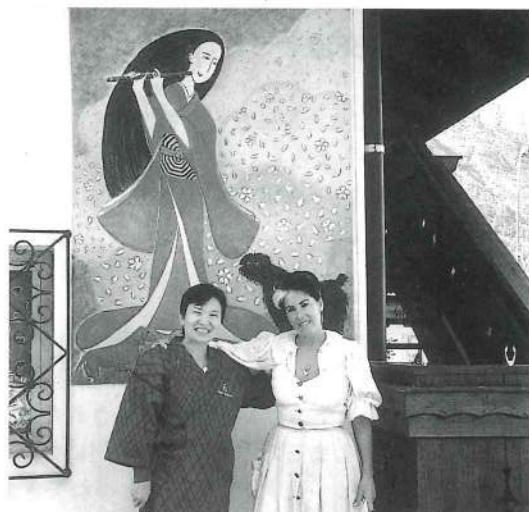
ファチエン町のこの社会福祉施設は、イタリア国内で最大のボランティア団体であるイタリア女性センターのヴェネツィア本部が運営。瓦は、ファチエン町にあるサン・フランチスコの家（孤児や身障者の子供達の家）夢博物館に展示されました。この夢博物館は、昨春、同施設の「花と土センター（身障者の子供達の授産施設）」と同敷地内に開設され、ベルリンの壁の石をはじめ、チャルノブリやエルサレムの石など、約80ヶ国からの平和を祈願する意味の込められた石が集められて展示されています。広島の被爆した瓦は、東京在住の西村さん（建築家兼建設会社会長）の大変なご尽力により、3月21日朝、ヴェネツィア空港に到着。親善使節の西村さんからアルド館長及びマルゲリータ女性センター会長に、直接この瓦が手渡されました。



●広島から寄贈された被爆した瓦とを願っています！

その2 壁画と熊の町サッパーダ

昨夏、オーストリア国境近くのサッパーダという、壁画で有名な山の町（標高1400m）を訪ね、フレスコ画を制作しました。町の洋品店主オルガさんの要望で、日本の伝統的な文化を描いて欲しいとのこと（今は亡き彼女のご主人が、生前、札幌冬季オリンピックに出場したことと二男が札幌冬季ユニアーシアードに出場したため、大の日本ファンだったのです）。桜雲を背景に龍笛（雅楽の樂器）を奏でる着物姿の日本女性を描きました。足元にはオルガさんの飼い犬2匹も描きました。桜は日本の象徴、リュウは水の神、女性の帯に描いた亀は長寿



●制作したフレスコ画の下で
オルガさんと宇井さん

の象徴、民話の犬は桜と縁がある名脇役...などといった意味をもたせ描画。タイトルは、「桜花の貴婦人（La Dama dei Ciliegi）」。日本文化を学んだという市職員のアンナさんが考えてくれました...。ピッタリ！

サッパーダは、コルティーナ・ダンペツツイオ（トニー・ザイラーの頃の冬季オリンピック開催地）に近く、雄大な山岳風景と貴重な野生動植物の生息地、そして独特の木造家屋と美しい山の花がピッタリと調和した町です。冬はスキーとスケート、夏は登山とハイキングなど、近接のオーストリアやドイツなどの国々の子供達が林間学校などの滞在を楽しむリゾート地です。写真のように、私達の制作したフレスコ画を背景にしたオルガさんは、この地方の民族衣装を着ています。彼女の娘はデザイナーで、この民族衣装を基にアレンジしたファッショング、今ヨーロッパで人気上昇中です。民族衣装の特徴は、チロル風のエーデルワイス形ボタンと、ごつついレース。そして、何と言っても幻想的なことは、この町の女性の多くがこの衣装を身に着けて働いていることです。

チロル地方独特の飾り窓や装飾壁画のある街を歩いていると、一瞬、おとぎの国へ迷い込んだような気分にさせられる町に、皆さんも訪れてみてはいかがでしょうか。



●サッパーダ町の旧ヴェネツィア風建築の教会

会員紹介 / こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ / みなさん、どうぞよろしく！

在住外国人と心の交流を

いけだ ゆうじ (大久保在住)

こんにちは。僕はN.I.A会員になってまだ間もない千葉工業大学の学生です。
どうか皆さん、これからよろしくお願ひします。

僕がN.I.A会員に入会した理由は以前テレビで「大地の子」という日中共同制作のドラマを見て感動し、中国に、そして中国語に興味を持ったのがきっかけです。(単純ですみません)。実際に去年の夏、ハルビン工業大学に40日間語学留学してきました。

そこで、すごく親切で日本語が上手な中国人の女の子と知り合い、彼女は僕に中国語を教えてくれて、僕は彼女に日本語を教えることで一緒に勉強していました。ときどき、中国でも放送された日本のアニメの歌を歌ったり、寮にあったピアノでテレサ・テンの曲を弾いたりして、楽しく過ごしました。しかし、中国に行って、ショックなこともあります。タクシーに乗ったとき、運転手の人が僕が日本人だとわかると「戦争は好き?」と尋ねてきました。「えっ?、日本人ってそう思われてるんだ」とすごくショックを受けました。日本と中国との間には日本による侵略戦争という過去のつらい歴史の影響で、いまだ二国間の心の距離は遠いものになっているのも事実だと感じました。

今思っているのは、日本人と在日外国人がお互いの文化を認め合い、交流の中で共通の価値観を見出すことで日本人と在日外国人との心の距離が少しでも縮まればと考えています。

去年、中国に行ったと書きましたが、僕はほとんど中国語が話せません。もし僕にあつたら、日本語と簡単な中国語をおまりながら話してくれればうれしいです。

僕は今、英会話を勉強したいと思っています。でも苦学生でお金がありません。こんな僕に英会話を教えてくれる方、いたら僕に声をかけてください。

なんか最後はお願い事ばかりになってしまいましたが、どうぞこれからもよろしくおねがいします。



●中国旅行の際のスナップ

只今日本語に夢中！

はせがわ 長谷川リューダさん (船橋市在住)

ロシアから来た、長谷川リューダさんを紹介します。

ウクライナで生れ育ちました。幼いときからロシア語だけでなく、他の言葉、日本語や、英語や、ドイツ語にもとても興味を抱いていました。大学はモスクワ大学に入りました。この頃は、日本の文化、歴史に大変興味があり、日本語学科に席をおきました。そこで、日本語を1年間勉強しました。翌年の夏に、待望の日本、新潟へ約2ヶ月間の短期語学留学が叶いました。

その後、モスクワ大学に戻り、日本語の勉強を18ヶ月程しました。

その新潟でご主人と出会ったそうです。ご主人は、ロシア語が堪能でロシア語で話しかけられ、憧れの地でロシア語と日本語での交際が始まりました。

この2ヶ月間の短期留学を終え、モスクワに戻ってもロシア語と日本語で手紙のやりとりや電話でのコミュニケーションが続きご主人が何度もモスクワを訪れ、プロポーズされ、結婚することになりました。

結婚してから、約半年が経ってからやっと日本滞在のビザを取得することができました。

日本で、時には、友人達を家に招き、ロシア料理で持て成します。郷土のロシア料理を作るとき、欲しい食材はデパートで大抵調達できますので、何ら不便はありません。彼女の作るロシア料理の代表の一つ、ピロシキは好評だそうです。

日本に住んでからは、Y.M.C.Aに通い日本語の勉強をまた始めました。ご主人に勧められ、一昨年の12月に始めて日本語の能力検定試験に挑戦してみました。しかしこの試験は、検定2級でしたが、非常に難しく感じ、やっぱりダメでした。その試験の中でも、特に日本の漢字が難しく感じられたようです。

その後も日本語の勉強を続け、昨年12月に再度、この検定試験に挑戦され、今度はみごと合格されたそうです。

彼女は大変な努力家のように、おみうけします。

今年は、検定試験一級の合格に向け、目下猛勉強をしています。この2月から、習志野市国際交流協会の日本語レッスンに出席され、一才の女の子の育児の傍ら、この検定の合格を目指しています。

彼女の将来の夢は、この日本語の能力を活かして、ロシアと日本の文化交流の橋渡しに、通訳として活躍なさることだそうです。

みなさんが応援して下さい。



●前田紀子さんと長谷川リューダさん

(日本語ボランティア 前田紀子記)

N.I.A.2000年度事業計画（事務局）

本協会も、昨年4月に新事務所に移転し、活動を始めましたが、1999年度は従来の事業を踏襲しながら、会員各位のご協力により、活発な事業展開をいたしました。

2000年度も昨年の総会で決定した9部門の事業部会は互いに連携を取り合い自主運営を進めてまいります。事業計画も各事業部会長の協議の中で主要事業の骨子を立案いたしました。事業計画は6月3日開催の総会で決定されますが、過に2000年度事業も推進しておりますので主要事業の実施予定をお知らせします。

ここでは主要な事業計画を発表させて頂きますので、会員の皆様は部会員として各事業部に加入して新しい事業の提案や運営について活動してくださることを願っております。

事業の実施は、N.I.A.スクウェアやチラシ等で会員にはお知らせしますが、参加希望の行事については事務局までお問合せ頂きたいと思います。

最近の各事業には、外国人の方々も大変参加が多くなっております。皆様の参加とご協力を念願しております。

2000年度主要事業

月	総務	姉妹都市交流部会	交流部会	広報部会	情報部会
4	理事会 監査			編集会議（毎月1回）	N.I.A.ホームページ作成
5					同上
6	総会 6/3 ・歓迎会 6/3 ・交流キャンプ 6/10,11	青少年交流事業（受入）	会員のつどい 6/3	N.I.A.スクウェア 第50号記念誌発行	同上
7	事業部長会議	青少年交流事業（派遣）	市民まつり参加		同上
8					同上
9				N.I.A.スクウェア51号発行	同上
10	事業部長会議		交流バスツアー（日帰り）		同上
11		夕市、桜まつり 俳句、絵画の募集	バーベキュー大会 海外旅行 (オーストラリア、ブーンダール湿地視察)		同上
12				N.I.A.スクウェア52号発行	同上
1	事業部長会議		餅つき大会		同上
2			交流ツアーア		同上
3				N.I.A.スクウェア53号発行	同上

月	比較文化部会	語学研修部会	在外外国人交流部会	ボランティア部会	青少年部会
4	世界の料理教室 4/13		日本語ボランティア事業 (月、水、木) あすなろ会（月、水） 字教室（火）		花見大会 4/2 定例会 4/22
5		語学交流講座（Ⅰ期）	同上	ホームステイ打合会	
6	世界の料理教室 6/15 (日本料理)	同上	同上	外国人相談窓口の検討	姉妹都市交流パーティ 6/3 交流キャンプ 6/10,11 定例会 6/17
7	日本文化セミナー (絵手紙)	同上	同上 七夕まつり		すいかわり・花火大会 7/22
8	比較文化セミナー講演会	語学交流講座（Ⅱ期） 日本語ボランティア 養成講座	同上（休講あり）		勉強会
9	世界の料理教室	同上	同上		
10	世界の料理教室	同上	同上		
11		同上	同上	ボランティア研修会	定例会
12		同上	同上 スピーチ茶話会		クリスマス・パーティ
1		語学交流講座（Ⅲ期）	同上		勉強会
2	世界の料理教室	同上	同上		定例会
3	日本文化セミナー (華道、茶道)	同上	同上 茶話会		

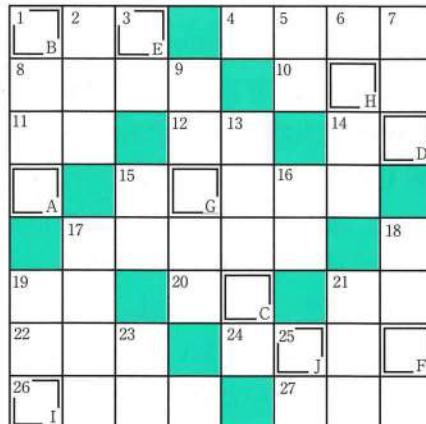
Let'sチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.50／プレゼント付！

〈ACROSS〉

- America
- Long, loose outer garment.
- Part of the body that connects the shoulders and the head.
- I know — only the father, but also the mother.
- Iowa
- Not good
- Temporary constable
- Strength or force
- Male person or animal previously referred to.
- New style
- Branch office
- Information and Records Section
- Movable part at the lower end of the back of an animal, bird, fish, or reptile which can wave, wag, or switch.
- "Will you open the window?" "
- One of the five divisions of the front part of the foot.

〈DOWN〉

- Quantity or amount used as a standard of measurement.
- the — of JAPAN, the CASPIAN —, the BALTIC —, the DEAD —.
- Air corps
- There is a picture — the wall.
- The two, not only the one.
- et cetera
- Know, knew, —.
- Person staying at the hotel or having a meal at a restaurant.
- It is — kind of you to come.
- Troop
- Lima is the capital city of this country.
- North —, South — : Two ends of the earth's axis.
- He, —, him.
- Prefix meaning life.
- Sir or senior
- I met him — the library.



〈出題者〉 御園生 馨 (編集部員)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A～Jの文字をつなげてできたことばが正解です。

ハガキに解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。7月末日必着。

正解者の中から抽選で5名の方に、アラバマ大学オリジナル・Tシャツ又はスポーツキャップをプレゼントします。
宛先：〒275-0016 市内津田沼5-12-12
サンロード4F 習志野市国際交流協会
「N.I.A.スクウェア」編集部まで。
たくさんのご応募お待ちしています。

日本語ボランティア養成講座の開講

在住する外国の方々に日本語を教えていただくボランティア講師の養成講座を開講いたします。日本語を学びたいという外国人が、増えております。養成講座終了後は、ボランティア講師として活躍したい方々の参加をお待ちしています。

講座は、週2回(火曜日と金曜日)を原則に全30回で授業は1回120分です。

開講期間：9月5日(火)から12月22日(火)

時 間：午前10時から正午

会 場：サンロード6階大会議室他

受 講 料：5,000円(他にテキスト代が5,000円程度)

講 師：手綱久枝さん

定 員：20名(多数の場合は抽選)

申 込 み：官製はがきに「日本語ボランティア養成講座希望」と明記の上、住所・氏名(フリガナ)・生年月日・電話・FAX番号を記入し、習志野市国際交流協会事務局へ。締切りは7月31日(月)必着。

編集後記

●記念座談会を収録した。色々な問題が提起された。医者の外国人への対応の悪さ、子供の教育不安、父親の家庭での対応の欠如等々。本当に異常なんでしょうか？
(館川 裕)

●3月16日に行われた第50号記念座談会では、日本語を主体に英語を交え2時間にわたって行われた座談の内容を集約したのですが、その雰囲気は伝わっていると思います。(本田 博)

●市内に新しいケアセンターができました。子供からお年寄りまで様々な世代が交流できる場に成長することを期待しています。国際交流活動も同じだと思います。協会行事への幅広い世代の参加をお待ちしています。(井吉 仙征)

●時の流れを感じた時に、ふとその重さに気づくことがある。時間、そして、一期一会を大切にしたい。(沼澤 佳子)

●深刻な少子化の時代に突入し2025年には日本の労働力人口が激減し、現在のGDPを維持するには数百万人の外国人労働者が必要という衝撃的な予測がある。そろそろ準備作業に着手する時期に入ったが…。(木村 孝浩)

●「花」「水」「木」。これは「第5回東京国際スリーデーマーチ」のウォーキングコース。今年は参加出来なかったので、地元の「谷津・秋津・香澄」公園ルートで森林浴を楽しむ。新緑と薫風のこの季節は気分最高。(御園生 馨)

前回の解答

〈解答〉 WELFARE

H	E	L	P	L	E	S	S
O		T	E	A	M		E
P	W		N	M		T	L
E	A	T		B	E	E	F
L	I	C	K		C	A	M
E	T		N	O		R	A
S	M	I	N	E		D	
S	E	N	T	E	N	C	E

当選者＜オリジナル・Tシャツ＞

森井孝則さん

橋本ニダさん

馬場雅子さん

正解者は8名でした。

N.I.A.スクウェア・第50号

発行2000年6月1日/発行責任者・林 安次

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.city.narashino.chiba.jp/nia/>

<Eメール> nia@city.narashino.chiba.jp